

おお大勝利

平成 30 年度山東サッカー一部報第 8 号 (7 月 3 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

Y2A 1勝1敗で前期優勝逃す

6月24日(日)Y2A第5節の新庄東戦が行われました。場所は米沢工業高校G。これまで県総体や選手権、県リーグでたびたび訪れているが、昨年訪れていないだけに、久々の感あり。天気は快晴。快晴すぎて、8:50の段階でグラウンドにはすでに陽炎が立っている。と書いて、思い出されたのが、「愛はかげろう」という歌。現役生諸君は知らだろうが、あんなはかない歌が燃え立つ愛の陽炎を指しているとは思えない、と思い調べると、かげろうには、昆虫の蜻蛉/蜉蝣もあり。短い命で知られ、古典「蜻蛉日記」の題名にも取り入れられている。「愛はかげろう」では「かげろう」と平仮名表記されていますが、歌詞を3年担当の国語科の教員と確認して、この「かげろう」は陽炎ではなく蜻蛉/蜉蝣との解釈で落ち着く。話を戻して、暑すぎて大変なコンディション。

そんな中ですが、清野総監督、工藤先輩、後藤報道局長といういつもの御三方は元気にいらっしゃって下さる。歳も相当離れた後輩の試合にいつも駆けつけて下さり、本当にありがたい。そんな魅力のあるサッカーを展開できているわけではありませんが、応援し甲斐のあるチーム足り得ていると激励されている気持ちになる。前節右SBで先発の1年ユースケを今節はボランチで先発起用。右SBはヨーティに継ぐ出戻り番長2年ダイキ、トップ下に3年キクチャン、右SHはシルエットや言動など兄と瓜二つの1年ヒラマサが出場。

試合が始まると、程なくCKを得る。もちろん1年CBヤグチ駆け上がる。早くもゴールの期待高まる。ベンチでは、不遜ながら、私が「ヤグチがCKでゴール決めまくるのもさ、相手にも問題あるよね。だって、これまで結構決めてるのに、がちりマークしないんだから」と口にする、雷藤GKコーチが3年マネージャーレナに、「もう得点ヤグチって(スコアブックに)書いとけは」と話しかける。こんな弛緩した雰囲気ベンチから眺めていると・・・やはりヤグチ決めた！ 頭で。何なんでしょう。ベンチでは笑いすら起きました。その後、山東の攻撃が良い訳ではありませんが、守備は結構安定し、ついでにショートカウンターから3年SHヤマモトが抜け出し、前半で2-0。内容は良くはないのですが、結果は出ている。これも大切なこと。

後半は、ようやくエンジンのかかった新東の鋭い攻めを受け、一進一退。後半途中3年生GKカイチ、SHミヤガワことササキ、SBカサコーを投入。新東に一点返され、流れが悪い中で、これまた途中出場の2年FWニコラスことシオンが、この日出番のなかった(翌城北戦は途中出場した)3年ババさんに敬意を表してか、ババさんの秘奥義「一人時間差シュート」を決めて、結局3-1で勝利。内容が悪くても結果は出す、これも重要ですが、いつもいつも内容が良くないのは問題。この日は、キクチャンが(これまでのボランチではなく、それよりも一段高い位置の)トップ下で起用されたためか、右に左にキクチャンが奥深くボ

ールを運んでくれ、相手の脅威となってくれたことが大きかった。

そして、翌週 6 月 30 日 (土) に Y2A 第 6 節の山形城北戦が行われました。城北は、私が見るところ、Y2A の優勝候補筆頭。山東が前期優勝を遂げるためには、絶対に勝たねば成らない相手。**山東守勢の時間が長くなることを前提にトレーニングし、メンバーも組んだ。**故障のため前節出場を見合わせた (だがその後の練習試合には強行出場した) **1 年ユッキー** がボランチにて先発出場。これまで SB、SH と先発をこなしてきたが、今節はボランチと、ユーティリティさを見せ付ける。ただ、この節、クラスマッチ (6/26~28) と体育祭 (6/29) という四日間の体育行事直後の試合であり、毎年、このタイミングの試合のパフォーマンスがすこぶる悪い (心身ともにフワフワした中で試合をすることが多い)。今年も、部活を故障で休んでいる生徒が、登録の関係か、クラスメートへの責任感の表れか、競技の違いによるものか、よくわかりませんがバレー等の競技でハッスルしており (死語か)、この節に調子を合わせているか疑わしくなる。しかし、前期優勝のためにはそんなことは言ってもらえないだろう。会場は、米沢市営人工芝サッカーフィールド (通称米沢 SF または単に SF)。この日も暑い暑い。

試合が始まると、**簡単なことを簡単に出来ない山東のスキルの低さ、判断の悪さ¹**が早々に出て、嫌な形で相手にボールを渡してしまう。まだ城北の攻撃が温まる前に、**警戒していた城北右 SH の選手に山東左サイドをぶちめかれ、そのまま得点を決められる。**前半早々の失点。その後何とか持ちこたえ、キクチャンの個の突破によって惜しいチャンスを作るなど、少し山東の時間もありましたが、山東が守備から入り (守備をまず先に考え) 城北が手厚く攻める展開がメイン。そうそう、この試合も CK があり、山東のあの (上述の) 選手が攻めあがりましたが、ボールが合わなかったというべきか城北には通用しなかったというべきか、得点できず。

後半は、ヤマモトやユッキー、ヨーティなど、故障気味の選手を逐次代えたということもあり、山東の攻撃は苦しい。そんな中でも、キクチャンがチャンスメイクし、後は FW が無人のゴールに決めるだけというシーンを作るも、逸機。あのシュートを決められないんですから、そりゃ得点できる訳がない。その後、悪いボールの奪われ方から逆襲に合い、止められず失点。ちょうど、今朝観た日本対ベルギーの 3 点目のように (これを書いているのが 7/3) 素早く崩され、2 失点目。結局この試合、もう一点相手に献上し、**0 対 3 の完敗。**

目先の勝負に追われ、内容あるサッカーの出来る選手の育成ができていない山東の課題を突きつけられた試合となりました。**決してコンディションの悪さが完敗の主因ではありません (そのくらい差がありました)。**長期的にはそうした課題の克服を目指しつつ、**今週末には多くの 3 年生の引退試合となる**県リーグがやってまいります。**最後は笑って終わりたい。3 年生諸君、特に頑張ろう。**応援よろしくお願いします。

7 月 7 日 (土) Y2A 第 7 節 米沢工業戦 10:00~@米沢工業高校 G

¹ この両者は、私見では重なり合います。よく「技術は高いが、判断が悪い」なんて評判を耳にしますし、高いレベルの選手・チームではこういう会話も成立するとは思いますが、少なくとも山形県のレベル (低いレベル) では、「技術は高いが判断は悪い」選手や、「判断は良いが技術は低い」選手は早々見当たりません。**巧い選手が判断も良い。**だって、good ball-control があってはじめて余裕を持って判断できるのだし、次のプレーに即座に入れる。良い視野だって確保される。というか、逆に、「判断が悪いのに技術は高い」というときの技術という言葉の使い方が間違っている、とすら思う。(判断が悪く) 状況にそぐわないプレーをする選手を「巧い=技術はある」と呼ぶこと自体、何かがおかしい。